

イチゴ「あまおう」の栽培支援システムの開発

背景

安定して高い収量を確保するために、最適な栽培管理を支援するシステムが必要でした。

成果の内容

総収量予測モデルを作成し、最適な栽培管理を提案するシステムを開発しました。



12月と1月の生育データをExcelに入力

予測や目標の確認

福岡いちご本場 地名1 2020年

生育指標	測定値	目標値
12月下旬の草高 [cm]	22	28
12月下旬までの積算展葉枚数 [枚]	11	11
1番成熟日数 [日]	38	39
1月下旬の草高 [cm]	27	29
1月下旬の葉幅 [cm]	7	7
2番開花日	01/21	01/17

あなたの予測収量		目標値
12月	1月	
4940	5495	5607

予測モデルにより総収量を予測

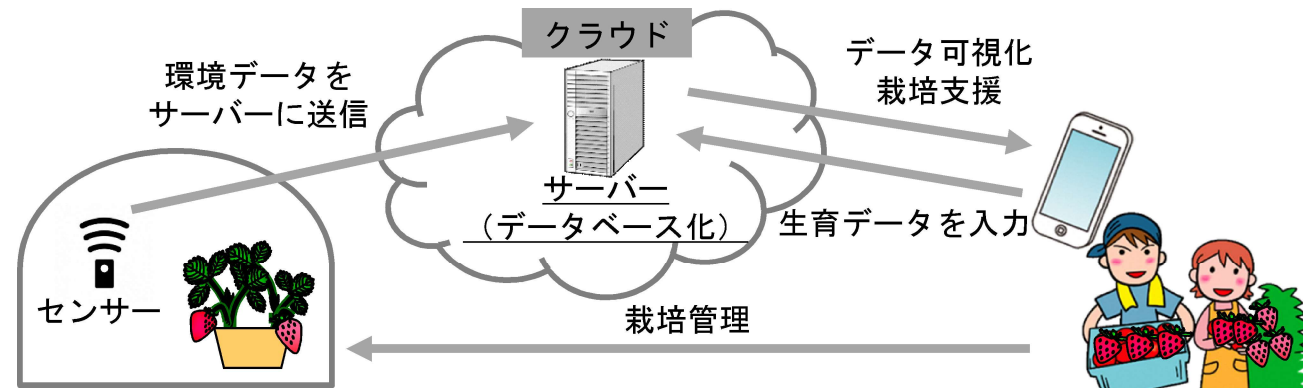
収量予測と同時に今後の栽培管理を提案

結果

12月下旬の草高	草高が低いので、電照を伸ばしましょう
12月下旬の草高	11月の平均温度が低かった可能性があります
12月下旬までの積算展葉枚数	展葉枚数は適正です
1番成熟日数	成熟日数は適正です
1月下旬の草高	草高が低いので、電照を伸ばしましょう
1月下旬の葉幅	葉幅は適正です
2番開花日	2番開花日が遅いので、果房間葉数と展葉枚数を確認しましょう

11・12月のハウス内環境データ(気温など)も併せて入力

→過去のハウス環境に対する改善点を表示



環境モニタリングシステムに導入することで、携帯端末でも利用可能

(野菜部)